



2ハンドル 混合栓

台付タイプ

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、2ハンドル混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

施工の前に…

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

使用圧力条件について…

- 給水圧力が0.7MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- * 電気温水器と組み合わせる場合は、特にご注意ください。

安全上のご注意

施工される前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

注意 気をつけていただきたい「注意」を表します。

禁止 指定した場所に触れないでください。

禁止 してはいけない「禁止」を表します。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」を表します。

施工上のご注意

禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。 ● 配管内の、ごみや砂などは完全に洗い流してください。 ● 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯をご使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。
必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯機からの配管は、配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。 ● 各部の接続を行う際はパッキンがついていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認をしてください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 水勢調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。 ● 給水・給湯配管および止水栓をキャビネットや流し台の裏側(壁の中)に配管(隠蔽配管)する場合は、必ず点検口を設置し、作業可能なスペースを確保してください。経年変化や劣化による漏水を発見できず、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。

安全上のご注意

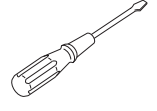
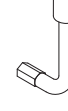
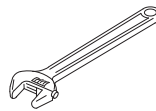
使用される前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

使用上のご注意

注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分ご注意ください。 ● 小さいお子様だけのご使用は避けてください。やけど、ケガをする恐れがあります。 ● 他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますのでご注意ください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯温度は最高85℃まででお使いください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。 ● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
接触禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 高温の湯をご使用の際は、吐水口(パイプ)に直接肌を触れないでください。吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。
必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 湯をご使用の際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ● 湯をご使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ● 可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので修理を依頼してください。

施工に必要な工具

- モンキーレンチ
- 立水栓取付工具
- マイナスドライバー

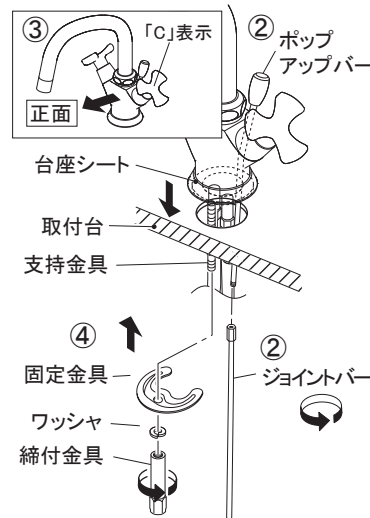


取付けの前に

数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。

取付方法

1. 混合栓本体を取付けます。



- ① 混合栓本体を設置する場所の取付穴径を確認します。
- ② 混合栓本体の支持金具より締付金具・ワッシャー・固定金具を外します。
* 給水・給湯ホースの先端の保護キャップは、取付けたまま作業をしてください。
* ポップアップバー(引棒)付の場合は、混合栓本体にポップアップバーを差込み、ジョイントバーを組付けておきます。
- ③ 混合栓本体底部の台座シートを確認し、混合栓本体を取付台に差込みます。
* ハンドル部の水側(表示「C」)が向かって右側になるように取付けてください。
- ④ 下部より固定金具・ワッシャー・締付金具の順に取付け、締付金具を「立水栓取付工具」などでしっかりと締付け、混合栓本体を確実に固定します。

正しい取付状態



誤った取付状態



- ⑤ 左図を参照し、取付状態を確認します。
* 台座シートが取付台に全周接しているか。
* 固定金具が確実に取付台に掛かるように取付いているか。

注意 混合栓本体が正しく固定されないと、グラつき、取付台下へ漏水、部品の損傷の原因になりますのでご注意ください。

注意 台座シートが取付台に接していない箇所があると、取付台下に水が浸入してグラつき、漏水の原因になりますのでご注意ください。

必ず実行 締付金具は、締付け過ぎないでください。固定金具が変形するまで締付けると固定力がなくなります。

必ず実行 混合栓本体を固定した後に、位置調整を行わないでください。無理な力が加かると器具の破損やゆるみの原因になります。

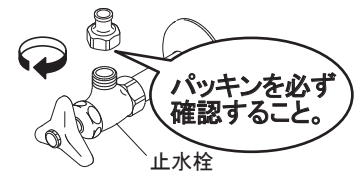
裏面へ続く➡

取付方法(つづき)

2. 給水・給湯ホースを取付けます。



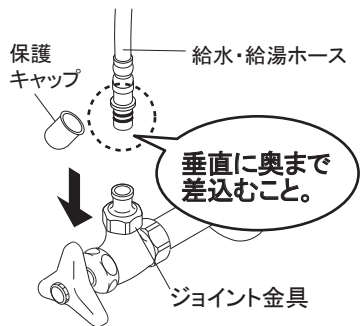
①ジョイント金具にパッキンをはめ込みます。



②ジョイント金具にパッキンが付いているのを確認してから、止水栓に「レンチ」などでしっかりと締付けます。



パッキンが付いていないと漏水する恐れがありますのでご注意ください。



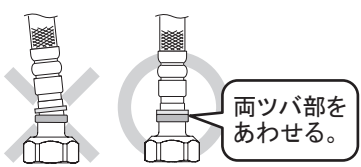
③給水・給湯ホースの先端の保護キャップを外し、給水・給湯ホースをジョイント金具へ垂直に奥までしっかりと差込みます。



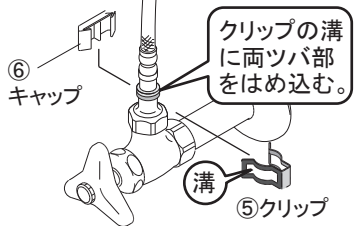
ホースの(湯)水シールを確認して逆配管にならないように設置してください。



給水・給湯ホースをジョイント金具に差込むときは、Oリングに傷を付けないよう垂直にゆっくり差込んでください。



④給水・給湯ホースがジョイント金具に正しく差込まれているか確認をします。

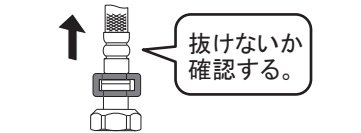


⑤クリップの溝に、両ツバ部(給水・給湯ホース側とジョイント金具側)が収まるようにクリップをはめ込みます。

⑥キャップをクリップに取付けます。



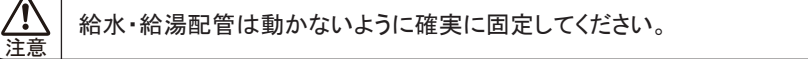
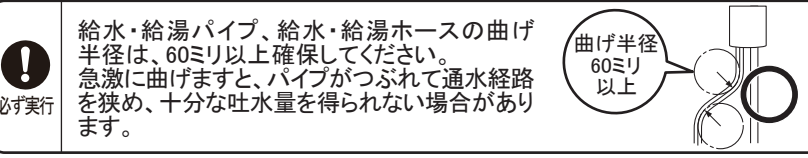
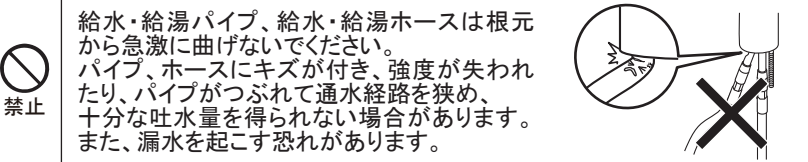
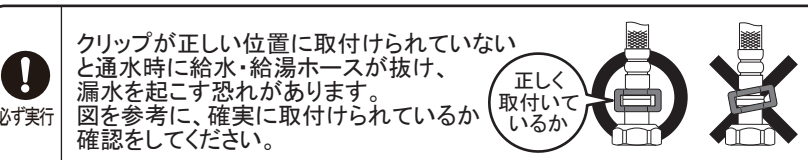
クリップで手を切る恐れがありますので、固定後は必ずキャップを取付けた状態にしてください。



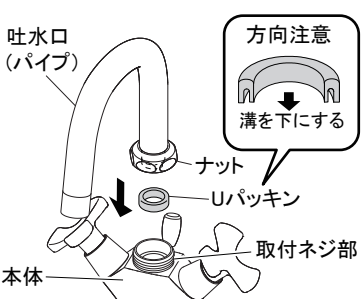
⑧給水・給湯ホースを上を引き、確実に接続されているか確認をします。



確実に取付けないと漏水する恐れがありますのでご注意ください。



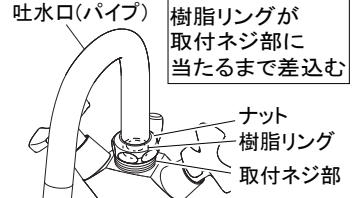
3. 吐水口(パイプ)を取付けます。(パイプ付きの場合のみ)



①吐水口(パイプ)から、Uパッキンを取外し、図を参考に溝の部分を下向きにして本体側に挿入します。



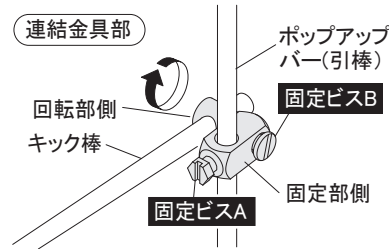
Uパッキンの挿入方向を間違えたり、傷を付けたりした場合、漏水や回転不良の原因となります。ご注意ください。



②吐水口(パイプ)をナット内部の樹脂リングが取付ネジ部に当たるまで差込みます。

③ナットを「レンチ」などでしっかりと締付けます。

4. 連結金具を接続します。(ポップアップバー付きの場合のみ)



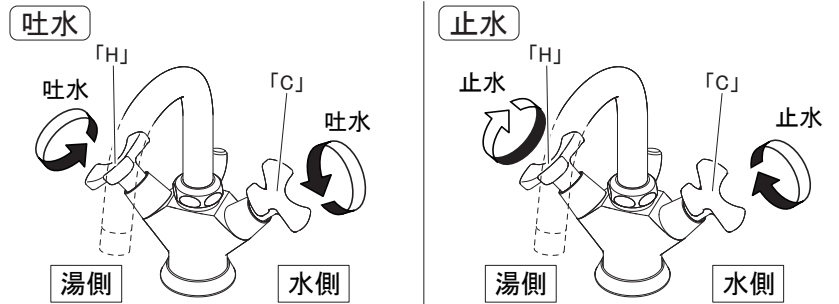
ポップアップ排水金具の排水栓を操作するために、排水金具のキック棒と水栓のポップアップバーを接続します。排水金具のキック棒を下げた状態で、連結金具の固定ビスAを「マイナスドライバー」で締付け、ポップアップバーに固定します。
*円滑に作動しない場合は連結金具の固定位置で微調整をしてください。
*調整後は、固定ビスA・Bをしっかり締付けてください。

取付後の点検

- ①止水栓または元栓を開き、各部に水もれがないかを確認します。水もれが発見された場合は、止水栓または元栓を閉め、水もれする箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを開き、湯水の混合具合および吐水状態を確認してください。
*適量、適温で吐水するために、止水栓で水量、湯量を調節してください。

使いかた

湯(水)を出す・止める



- ハンドルを左に回すと「吐水」、右に回すと「止水」します
*湯側ハンドル…本体の正面に向かって左側のハンドル 表示「H」
*水側ハンドル…本体の正面に向かって右側のハンドル 表示「C」



湯をご使用の際は、必ずハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側へまわし、お好みの温度に調節してください。湯側を先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。

●ポップアップバー付き混合栓ご使用時の注意事項



本体後部のポップアップバー穴に水をかけないでください。キャビネット下へ漏水を起こす恐れがあります。



お手入れのしかた

器具のお手入れ いつまでも美しくご使用いただくために。



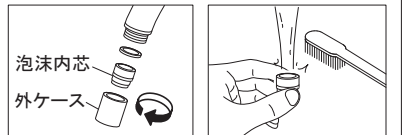
- 水栓器具の金属部は…ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
- 水栓器具のプラスチック部・塗装面は…乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭取ってください。



金属たわしやクレンザー・磨き粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

お願い

最初お使いになっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡沫内芯を取外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。



●修理を依頼されるときは



正常に作動しない場合は、お買上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。品番は、本体裏に貼付してあるラベルで確認してください。

品番: **019*
000-000 ← 品番



株式会社 カクダイ
本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124
東京 ☎(03)3552-0981 大阪 ☎(06)6730-3391 札幌 ☎(011)704-1511
名古屋 ☎(052)504-1551 福岡 ☎(092)611-4611 仙台 ☎(022)239-8371
広島 ☎(082)278-2821
1112** M-A3503A

無断転載・複写を禁ず